PCT

特許性に関する国際予備報告 (特許協力条約第二章)

(法第12条、法施行規則第56条) 【PCT36条及びPCT規則70】

REC'D. 04	NOV 2004
WIPO	PCT

出願人又は代理人 の書類記号 03-F-042PCT	今後の手続き	こついては、様式I	CT/IPEA/416	と参照すること。
国際出願番号 PCT/JP03/09742	国際出願日	31. 07. 2003	優先日 (日.月.年) 31	. 07. 2002
国際特許分類 (IPC) Int. Cl'	C12M3/0		· ·	
出願人 (氏名又は名称) 独立行政法人科学技術振興機構				
1. この報告書は、PCT35条に基づ 法施行規則第57条 (PCT36条)			れた国際予備審査報告であ	5.
2. この国際予備審査報告は、この表紙	を含めて全部で	5	_ ページからなる。	
3. この報告には次の附属物件も添付さ a X 附属書類は全部で1		である。		,
	。礎とされた及び (PCT規則70.1	・ グラスはこの国際予 グラスで実施細則第6	備審査機関が認めた訂正を 5 ○ 7 号参照)	含む明細書、請求の範
第 I 欄 4. 及び補充欄に示 国際予備審査機関が認定し	、したように、比 た差替え用紙	願時における国際	出願の開示の範囲を超えた	補正を含むものとこの
b 電子媒体は全部で 配列表に関する補充欄に示す ブルを含む。(実施細則第8		! ュータ読み取り可		本の種類、数を示す)。 配列表に関連するテ−
4. この国際予備審査報告は、次の内容				
図 第 I 欄 国際予備審査 □ 第 I 欄 優先権 □ 第 II 欄 新規性、進歩	性又は産業上の	利用可能性につい	ての国際予備審査報告の不	作成
X 第IV欄 発明の単一性 X 第V欄 PCT35条 けるための文 第V欄 ある種の引用 第VI欄 国際出願の不	(2)に規定する類 献及び説明 文献	新規性、進歩性又は	産業上の利用可能性につい	いての見解、それを裏作
第四欄 国際出願に対				
国際予備審査の請求書を受理した日 30.01.2004		四次 1.144	15. 10. 2004	
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/J	P) .	特許庁審3	E官(権限のある職員) ・	4 N 3 2 2
郵便番号100~891 東京都千代田区殿が関三丁目	5		深草 亜子	•
水水部・八四四限が労ニ」日	は取りで	假飪来县	03-3581-110	1 内線 3448

第1欄 報告の基礎	_
1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。	
 □ この報告は、 □ それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。 □ PCT規則12. 3及び23. 1(b)にいう国際調査 □ PCT規則12. 4にいう国際公開 □ PCT規則55. 2又は55. 3にいう国際予備審査 	
2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)	ı
出願時の国際出願書類	
X 明細售 第 1-27 ページ、出願時に提出されたもの 第	
X 請求の範囲 第 2-4,7-20 項、出願時に提出されたもの 第 1,6 項*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの 項*、30.08.2004 付けで国際予備審査機関が受理したもの 項*、 付けで国際予備審査機関が受理したもの	
X 図面 第 1-13 ページ/図、 出願時に提出されたもの 第	のの
■ 配列表又は関連するテーブル 配列表に関する補充欄を参照すること。	
3. 区 補正により、下記の書類が削除された。	
財細書 第 ページ X 請求の範囲 項 図面 第 ページ/図 配列表(具体的に記載すること) の列表に関連するテーブル(具体的に記載すること)	
4. □ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。 (PCT規則70.2(c))	超
□ 明細書 第 ページ □ 請求の範囲 第 項 □ 図面 ページ/図 □ 配列表(具体的に記載すること) □ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること)	
* 4. に該当する場合、その用紙に "superseded" と記入されることがある。	

1.		
□ 請求の範囲を結補した。 □ 遺加手数料を納付と共に異職を申立てた。 □ 請求の範囲の結婚も、遺加手数料の納付もしなかった。 □ 請求の範囲の結婚も、遺加手数料の納付もしなかった。 □ 国際予価審査機関は、次の週由により発明の単一性の要件を満たしていないと判断したが、PCT規則68.1の規定に強い、請求の範囲の結婚及び追加手数料の納付を出題人に求めないこととした。 3. 国際予価審査機関は、PCT規則13.1、13.2及び13.3に規定する発明の単一性を次のように判断する。 □ 演足する。 □ 以下の理由により満足しない。 本願明細書の記載を参酌する 極、かてクリーンな環境で培養を、しかも高度な熟練性を有した限られた作業者に依存することなな、循便と下の一部に追した事業経過に、PCT規則が可能として、長時間の培養を可能とする自動的に制御が可能として、長時間の培養を可能とする自動的接接をできるととなり、かつの多正迫力等も任意に、自動的に制御が可能として、長時間の培養を可能とする自動的接接をであると認められる。 □ 一方、請求の範囲1 7 - 2 0 に記載された発明は、生体由来の細胞を紅滑をこその量および/生また対理を表別、かつ、3と認められる。したがつて、請求項1 - 1 6に記載された発明と1 7 - 2 0 に記載された発明に、ともに培養装置である点にないて共通したいるといえる。 □ したいるできる通定装置である点に対していこ場如けよ、先行技術に対して、1 6 に記載された発明と、7 - 2 0 に記載された発明は、とてに培養装置にある原とに認められず、単一の一般的発明概念を形成するようは流的特徴を共有するものとに認められず、単一の一般的発明概念を形成するようは特別的特徴を共有するものとに認められない。よって、この出題には、請求の範囲1 - 1 6 に記載された発明と、請求の範囲1 7 - 2 0 に記載された発明の、計 2 の発明が包含されているといえる。	第IV欄	発明の単一性の欠如
図 適加手数料の熱付と共に異職を申立てた。 □ 適加手数料の熱付と共に異職を申立てた。 □ 請求の範囲の該離も、適加手数料の熱付もしなかった。 2. □ 国際予備審查機関は、次の理由により発明の単一性の要件を耐たしていないと判断したが、PCT規則68.1の規定に強い、請求の範囲の該端及び適加手数料の納付を出版人に求めないこととした。 3. 国際予備審查機関は、PCT規則13.1、13.2及び13.3に規定する発明の単一性を依のように判断する。 □ 減足する。 □ 以下の理由により測足しない。 本願明細書の記載を参酌すると、請求の範囲 1 − 1 6 に記載された発明は、特殊なな無適施設を必要とせず、極めてクリーシンな環境で培養でき、しかも高度、特殊な無性を有した限られた作業者に依存することなら、環境因子である事助に、メンテナンスも容易に、培養経過に応じて長時間の増養を可能とするも即動培養と置であると認められる。 一方、請求の範囲 1 7 − 2 0 に記載された発明は、生体由来の細胞や組織をその量および/また世質を未非侵襲数と而つると認められる。 - の一般も多別定を見備した培養・設置であると認められる。 したがって、請求項 1 − 1 6 に完成された発明と 1 7 − 2 0 に記載された発明している名別であるとに培養・設置であるにおいた発明としている名別であるから、培養・設置であるにおいた発明としている名から、培養・設置であるにおいた発明といる名から、培養・設置であるにおいた発明としている名がら、培養・設置であるにおいた発明としているものと対しない。 □ 1 6 に記載された発明と、請求の範囲 1 − 1 6 に記載された発明と、方質核に対して質試される。地域とれた発明と、請求の範囲 1 − 2 0 に記載された発明と、請求の範囲 1 − 1 6 に記載された発明と、請求の範囲 1 − 2 0 に記載された発明と、読みの範囲 1 − 1 6 に記載された発明と、請求の範囲 1 − 1 6 に記載された発明と、請求の範囲 1 − 1 6 に記載された発明と、請求の範囲 1 − 1 6 に記載された発明と、清潔水の範囲 1 − 1 6 に記載された発明と、清潔水のでに対するといいでは対するといいのは対するといいではないでは、まれていいではないではないではないいいではないではないのはないではないではないではないのはないではないいいいではないではないではないではないでは	1. 🖁	育求の範囲の減縮又は追加手数料の納付の求めに対して、出願人は、
□ 油加手数料の納付と共に異磁を申立てた。 □ 請求の範囲の破解も、追加手数料の納付もしなかった。 2. □ 国際予備審査機関は、各の理由により発明の単一性の要件を満たしていないと判断したが、PCT規則68.1の規定に定い、請求の範囲の破縮及び追加手数料の納付を出頭人に求めないこととした。 3. 国際予備審査機関は、PCT規則13.1、13.2及び13.3に規定する発明の単一性を次のように判断する。 □ 設足の理由により満足しない。 本願明細書の記載を参酌すると、請求の範囲 1 − 1 6 に記載された発明は、特殊な無無菌施設を必要とせず。極めてクリーンな環境で培養でき、しかも高度特殊な無無値施設を必要とした作業者に依存することなく、簡便、かつ効率的し力等も任意に、自動的に制御可能として、長時間の培養を可能とする自動培養基値であると認められる。 一方、請求の範囲 1 7 − 2 0 に記載された発明は、生体由来の細胞や組織をその量および/または質を、非径製的、かつ、3次記められる。 したがって、請求項 1 − 1 6 に記載された発明としているといえる。したがって、請求項 1 − 1 6 に記載された発明としているといえる。したがって、請求項 1 − 1 6 に記載された発明といた発明は、先行技術に対して、貢献する技術的特徴を共有するものとは認められず、単一の一般的発明概念を形成するように連関しているものとは認められない。よって、この出願には、請求の範囲 1 − 1 6 に記載された発明と、請求の範囲 1 − 1 6 に記載された発明と、表別は、と、請求の範囲 1 7 − 2 0 に記載された発明と、請求の範囲 1 − 1 6 に記載された発明と、請求の範囲 1 − 2 0 に記載された発明と、清水の範囲 1 − 2 0 に記載された発明は、光水の範囲 1 − 2 0 に記載された発明は、光水の範囲 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0		請求の範囲を減縮した。
□ 請求の範囲の減縮も、追加手数料の納付もしなかった。 2. □ 国際予備審查機関は、灰の理由により発明の単一性の要件を満たしていないと判断したが、PCT規則68.1の規定に使い、請求の範囲の減縮及び追加手数料の納付を出願人に求めないこととした。 3. 国際予備審查機関は、PCT規則13.1、13.2及び13.3に規定する発明の単一性を灰のように判断する。 □ 満足する。 □ 以下の理由により満足しない。 本願明細書の記記載を参酌すると、請求の範囲 1 − 1 6 に記載された発明は、特殊な無菌施設を必要とせず、極めてクリーンな環境で培養でき、しかも高度な熟練性を有した限られた作業者に依存することなく、簡便、かつ効率的的に、メソンテナンスも容易に、培養経過にして培養環境の環境因子である圧迫力等も任意に、自動的に制御が可能として、培養明は、生体由来の細胞や組織を表のよ認められる。 一方、請求の範囲1 7 − 2 0 に記載された発明は、生体由来の細胞や組織をその最およびまたは質を、非侵襲的、かつ、3 次元的に分析・測定を行うことのできる測定装置を具備した培養装置であると認められる。 したがって、請求選「こもらにおいて共通して既に分析・測定を行うことのできる測定装置と具備した培養装置であると発明とならいえる。 しかしながら、培養装置にある点において共通して既に周知であるから、請求項1 − 1 6 に記載された発明は、先発明は、たわ技術に対して貢献する技術的特徴を共有するものとは認められない。 よって、互関出版の教明概念を形成するように連関しているものとは認められない。よって、表明の出まれた発明と、請求の範囲1 7 − 2 0 に記載された発明の、計2の発明が包含されているといえる。 □ オペロの部分	X	追加手数料を納付した。
 □ 国際予備審查機関は、各の理由により発明の単一性の要件を満たしていないと判断したが、PCT規則68.1の規定に従い、請求の範囲の破縮及び追加手数料の納付を出頭人に求めないこととした。 3. 国際予備審查機関は、PCT規則13.1、13.2及び13.3に規定する発明の単一性を次のように判断する。 □ 演足する。 □ 以下の理由により満足しない。 本顧明細書の記載を参酌すると、請求の範囲 1 − 1 6 に記載された発明は、特殊な無菌施設を必要とせず、極めてクリーンな環境で培養でき、しかも高度な熟練性を有した限られた作業経過に応じて培養環境の環境因子である上並力等メンテナンスも容易に、培養経過に応じて培養環境の環境因子である目動培養装置であると認められる。 一方、請求の範囲 1 7 − 2 0 に記載された発明は、生体由来の細胞や組織をその量および/または質を、非侵襲勢的、かつ、3 次元的に分析・測定を行うことのできる測定装置を具備した培養装置であると認められる。したがって、請求理 1 − 1 6 に記載された発明と 1 7 − 2 0 に記載された発明は、ともに培養装置である点において共通しているといえる。しかしながら、培養装置である点において共通しているといえる。しかしながら、培養装置である点において共通しているといえる。しかしながら、培養装置である点において共通しているといえる。をおよされた発明と、1 7 − 2 0 に記載された発明と、一個を明報、会を形成するように連関しているものとは認められない。よって、この出願には、請求の範囲 1 − 1 6 に記載された発明と、請求の範囲 1 7 − 2 0 に記載された発明の、計 2 の発明が包含されているといえる。 4. したがって、国際出願の次の部分について、この報告を作成した。 □ すべての部分 		追加手数料の納付と共に異議を申立てた。
正確い、静水の範囲の装縮及び追加手数料の納付を出願人に求めないこととした。 3. 国際予備審査機関は、PCT規則13.1、13.2及び13.3に規定する発明の単一性を次のように判断する。 □ 満足する。 区 以下の理由により満足しない。 本願明細書の記載を参酌すると、請求の範囲1−16に記載された発明は、特殊な無菌施設を必要とせず、極めてクリーンな環境で培養でき、力か率的にメルテナンスを易しれた作業者に依存することなく、簡便、かつ効率的にメルテナンスを易しれた「特養経過に応じて養養環境の環境因子である圧迫力等も任意に、自動的に制御が可能として、長時間の培養を可能とする自動培養装置であると認められる。 一方、請求の範囲17−20に記載された発明は、生体由来の細胞や組織をその量および/または質を、非侵襲的、かつ、3次元的に分析・測定を行うことのできる測定装置を見備した暗義装置であると認められる。したがって、請求項1−16に記載された発明と17−20に記載された発明は、ともに培養装置である点に優先日記から既に周知であるから、請求項1−16に記載された発明と17−20に記載された発明は、先行技術に対して貢献する技術的特徴を共有するものとは認められず、単一の一般的発明概念を形成するように連関しているものとは認められない。よって、この出願には、請求の範囲1−16に記載された発明と、請求の範囲17−20に記載された発明の、計2の発明が包含されているといえる。		請求の範囲の減縮も、追加手数料の納付もしなかった。
□ 以下の理由により満足しない。 本願明細書の記載を参酌すると、請求の範囲1-16に記載された発明は、特殊な無簡施設を必要とせず、極めてクリーンな環境で培養でき、しかも高度な熟練性を有した限られた作業者に依存することなく、簡便、かつ効率的に、メシテナンスも容易に、培養経過に応じて培養環境の環境因子である圧迫力等も任意に、自動的に制御が可能として、長時間の培養を可能とする自動培養装置であると認められる。 一方、請求の範囲17-20に記載された発明は、生体由来の細胞や組織をその量および/または質を、非是襲物、かつ、3次元的に分析・測定を行うことのできる測定接置を具一16に記載された発明は、1-20に記載された発明は、ともに培養装置である点において共通しているといえる。したがって、請求項1-16に記載された発明は、先行技術に対して育財は、ともに培養装置である原とは認められず、単一の一般的発明概念を形成するように連関しているものとは認められず、単一の一般的発明概念を形成するように連関しているものとは認められず、単一の一般的発明概念を形成するように連関しているものとは認められず、以よって、国際出版には、請求の範囲1-16に記載された発明と、請求の範囲17-20に記載された発明の、計2の発明が包含されているといえる。	2.	国際予備審査機関は、次の理由により発明の単一性の要件を満たしていないと判断したが、PCT規則68.1の規定に従い、請求の範囲の減縮及び追加手数料の納付を出願人に求めないこととした。
図下の理由により満足しない。 本願明細書の記載を参酌すると、請求の範囲 1 − 16に記載された発明は、特殊な無菌施設を必要とせず、極めてクリーンな環境で培養でも、しから高度な熟練性を有した限られた作業者に依存することなく、簡便、かつ効率的に、メンテナンスも容易に、培養経過に応じて培養環境の環境因子である圧迫力等も任意に、自動的に制御が可能として、長時間の培養を可能とする自動培養装置であると認められる。 一方、請求の範囲 1 7 − 20に記載された発明は、生体由来の細胞や組織をその量および/または質を集備した経費装置であると認められる。したがって、請求項1 − 16に記載された発明と17 − 20に記載された発明は、ともに培養装置である点に認いて共通しているといえる。したがって、請求項1 − 16に記載された発明と17 − 20に記載された発明は、先行技術に関知しているがら、培養装置は大発明と17 − 20に記載された発明は、先行技術に関知して、指対して貢献する技術的特徴を共有するものとは認められない。よって、この出願には、請求の範囲1 − 16に記載された発明と、請求の範囲1 − 16に記載された発明と、請求の範囲1 − 20に記載された発明の、計2の発明が包含されているといえる。	3.	国際予備審査機関は、PCT規則13.1、13.2及び13.3に規定する発明の単一性を次のように判断する。
図 以下の理由により満足しない。 本顧明細書の記載を参酌すると、請求の範囲 1 − 1 6 に記載された発明は、特殊な無菌施設を必要とせず、極めてクリーンな環境で培養でき、しかも高に、特殊な無菌施設を必要とせず、極めてクリーンな環境で培養でき、しかも高に、な熟練性を有した限られた作業者に依存することなる、簡便、かつ効率的に、メンテナンも容易に、培養経過に応じて培養環境の環境因子である圧迫力等も任意に、自動的に制御が可能として、長時間の培養を可能とする自動培養を置であると認められる。 一方、請求の範囲 1 7 − 2 0 に記載された発明は、生体由来の細胞や組織をその量および/または質を、非侵襲的、かつ、3 次元的に分析・測定を行うことのできる測定装置を具備した培養財産である場別と1 7 − 2 0 に記載された発明と1 7 − 2 0 に記載された発明は、ともに培養装置であるはおいて共通しているといえる。から、請求項1 − 1 6 に記載された発明と1 7 − 2 0 に記載された発明は、先行技術に対して貢献する技術的特徴を共下るものとは認められず、単一の一般的発明概念を形成するように連関では、請求の範囲1 − 1 6 に記載された発明と、請求の範囲1 − 2 0 に記載された発明の、計2の発明が包含されているといえる。	· -	
本願明細書の記載を参酌すると、請求の範囲 1-16に記載された発明は、特殊な無菌施設を必要とせず、極めてクリーンな環境で管でいつ効率的に、以上で培養できるした限られた作業者に依存することなく、領便、かつ効率的に、メンデナンスも容易に、培養経過に応じて培養環境の環境因子である圧迫力等も任意に、自動的に制御が可能として、長時間の培養を可能とする自動培養を置いると認められる。 一方、請求の範囲 17-20に記載された発明は、生体由来の細胞や組織をその量および/または質を、非侵襲的、かつ、3次元的に分析・測定を行うことのできる測定装置を具備した培養装置であると認められる。したがって、請求項1-16に記載された発明と17-20に記載された発明は、ともに培養装置は本願優先日がら既に周知であるから、請求項1-16に記載された発明と17-20に記載された発明は、先行技術的特別を共有するものとは認められない。単一の一般的発明概念を形成するように連関しているまののとは認められない。よって、この出願には、話求の範囲1-16に記載された発明と、請求の範囲17-20に記載された発明の、計2の発明が包含されているといえる。	 x	・ 以下の理由により満足しない。
□ すべての部分 Instanton		特殊な無菌施設を必要とせず、極めてクリーンな環境では後く、からいた。 な熟練性を有した限られた作業者に依ですることなく、簡便、かつ効率的に、等 な熟練性を有した限られた作業者に応じて培養の環境因子する自動培養を も任意に、自動的に制御が可能として、長時間の培養を可能とする自動培養を であると認められる。 一方、請求の範囲17-20に記載された発明は、生体の細胞や組織を そのできる測定装置を具備した培養装置であると認められる。 したがって、請求項1-16に記載された発明と17-20に記載された発明と17-20に記載された発明は、先行技術に対して 明は、ともに培養装置は本願優先日前から既に周知であるから、請求項1 16に記載された発明と17-20に記載された発明は、先行技術に対して 貢献する技術的特徴を共有するものとは認められない。 での出版には、請求の範囲1-16に記載された発明と、請求の範囲1-16に記述された発明と、請求の範囲1-16に記述された発明と、請求の範囲1-16に記述されて記述された発明と、請求の範囲1-16に記述されて記述されて記述されて記述されて記述されて記述されて記述されて記述されて
□ すべての部分		
□ すべての部分		
□ すべての部分 In Black 2 W/A		
□ すべての部分 In Black 2 W/A		
□ すべての部分 In Black 2 W/A		
□ すべての部分 In Black 2 W/A		
は関わるが	4.	したがって、国際出願の次の部分について、この報告を作成した。
X 請求の範囲 1-4,6-20 に関する部分		
		X

国際出願番号 PCT/JP03/09742

舅	ξV,	欄 新規性、進歩性又は産業上の それを裏付ける文献及び説	の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、 明	
]	ι.	見解		
		新規性(N)	請求の範囲 <u>1-4,6-20</u> 請求の範囲	有
	٠.	進歩性(IS)	請求の範囲 <u>1-4,6-16,19,20</u> 請求の範囲 <u>17,18</u>	有
		産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲 <u>1-4,6-20</u> 請求の範囲	有 無

2. 文献及び説明 (PCT規則70.7)

《(雄文)

- 1. JP 63-283571 A
- 2. JP 58-155087 A
- 3. JP 2-96647 A
- 4. JP 2001-299383 A

文献1には、閉鎖され、かつ、無菌状態の内部空間を有する箱体の培養装置内で、培養容器において培養を行う自動培養装置において、該培養装置内に設けられ無菌的雰囲気に保持された培養室及び準備室を仕切壁をもって区画する(すなわち、「培養装置の箱体内に複数に区分けされた空間」を設ける)ことが記載されている(第3頁左下欄第6~7行、及び、第4頁左下欄第9行~13行参照)。

行、及び、第4頁左下欄第9行~13行参照)。 文献2には、培養液の供給装置及び排出装置、培養状態の観察装置、並びに、これら装置に培養容器を移動させる転送装置が配置された、細胞の自動培養装置が記載されてい

国際予備審査報告で新たに引用される文献3には、少なくとも1対の(すなわち「2個以上」の)電極の間に培養物が配置され、電気容量測定を行うことにより、培養物を非侵襲的に測定することが記載されている。

変形に例だりることが記載されている。 文献4には、培地中の微生物のコロニーの立体的形状を、XYZ方向からのレーザー光 線照射による透過光の投影像をもとに求めること(すなわち、厚みを考慮して非侵襲的に 測定すること)が記載されている。

(補充欄に続く。)

補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

第 V 欄の続き

【請求の範囲1-11、14-16】

文献1及び2に記載の発明は、ともに自動培養装置という共通の技術分野に属するものであるから、文献1に記載の自動培養装置において、文献2に記載の、培養液供給装置・排出装置、観察装置、及び、培養容器移動装置をさらに設けることは、当業者が容易になしうることである。

また、自動培養装置において、ガスインキュベータ、電気信号による指示制御装置、滅菌 ガス導入設定装置、洗浄装置、薬剤添加装置等を設けることは、本願優先日前に当該技術分 野において広く行われていることであり、当業者が必要に応じて付加できる事項である。

したがって、閉鎖され、かつ、無菌状態の内部空間を有する箱体の培養装置内で、培養容器において培養を行う自動培養装置において、培養装置の箱体内に複数に区分けされた空間、及び、ガスインキュベーターや培養液供給装置等の種々の装置を配置することは、当業、者に容易に想到しうることであるといえる。

しかしながら、文献1、2には、上記「複数の区分けされた空間」を、無菌状態の内部空間を複数に区分けすることにより配設することまでは記載されておらず、本願優先日前の技術常識を考慮しても、当業者に容易に想到しうることであるとはいえない。

したがって、上記請求の範囲に記載された発明は、国際調査報告で引用された文献及び新たに引用された文献1-4の記載、並びに、本願優先日前の技術常識に対して進歩性を有する。

【請求の範囲17、18】

文献2、3はともに培養という共通の技術分野に属するものであるから、文献2に記載の 自動培養装置における培養状態の観察装置として、文献3に記載されているような、電極に よる電気容量測定装置を採用することは、当業者が容易になしうることである。

したがって、上記請求の範囲に記載された発明は、国際調査報告後新たに引用された文献 2、3の記載に基づいて当業者が容易になしうることであり、進歩性を有しない。

【請求の範囲19、20】

文献4には、3方向からの透過光による投影像をもとに立体的形状を求めることが記載されているが、培養物の立体的形状を測定する手段として、XYスキャニング装置付き変位計やXYスキャニング装置付き蛍光測定装置を採用することまでは記載されておらず、本願優先日前の技術常識を考慮しても、当業者に容易に想到しうることであるとはいえない。

したがって、上記請求の範囲に記載された発明は、国際調査報告で引用された文献及び新たに引用された文献1-4の記載、並びに、本願優先日前の技術常識に対して進歩性を有する。

請求の範囲

- 1. (補正後) 閉鎖され、かつ、複数に区分けされている無菌状態の内部空間を有し、空間同士が閉鎖可能とされている箱体の培養装置内で、培養容器において生体由来の細胞または組織を培養する自動培養装置であって、培養装置の箱体内に複数に区分けされた空間、開閉窓付きガスインキュベーター、培養液の供給装置と排出装置、培養状態の観察装置並びにこれら装置に培養容器を連続的もしくは断続的に移動させる移動装置が配置されているとともに、培養状態の観察装置からのデータ信号によって、前記の装置の少なくともいずれかのものの動作を電気信号により指示制御する指示制御装置が具備され、交叉汚染を防止することができることを特徴とする生体由来の細胞または組織の自動培養装置。
 - 2. 培養装置箱体内の一部または全部に滅菌ガスを導入する設定装置が具備されていることを特徴とする請求項1の自動培養装置。
 - 3. 滅菌ガスが、オゾンガスであることを特徴とする請求項2の自動培養装置。
- 15 4. 培養装置箱体内の一部または全部を外部よりも陽圧とする環境条件の設定 装置が具備されていることを特徴とする請求項1ないし3いずれかの自動培養 装置。
 - 5. (削除)
- 6. (補正後) 培養装置の箱体内における複数の空間の区分けには、遮断板に 20 より区分けされ、この遮断板は培養容器の移動のための開閉自在な遮断板ドアを 具備されていることを特徴とする請求項1ないし4いずれかの自動培養装置。
 - 7. 細胞または組織の洗浄のための装置が配設され、培養容器のこの洗浄装置への移動と、それらの動作が指示制御装置により行われることを特徴とする請求 項1ないし6いずれかの自動培養装置。
- 25 8. 薬剤添加のための装置が配設され、培養容器のこの薬剤添加装置への移動 と、それらの動作が指示制御装置により行われることを特徴とする請求項1ない し7いずれかの自動培養装置。